

## 「カタツムリの産卵(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

陸生の軟体動物の中でも、ナメクジは嫌われるが、カタツムリは人気がある。「♪デ〜ンデムシムシカ〜タツムリ・・・」という童謡で親しまれているのも大きな要因だろう。子どもたちと自然観察をしているのも、「センセ〜イ、カタツムリ、いたー!」という叫び声はよく聞く。先日の水曜日の朝、となりのクラスの3年生の男の子が、大きなカタツムリを持ってきた。とても大きなカタツムリだったので、「卵を産むかもしれないよ」と話しておいた。男の子は一度家に持ち帰った。



翌朝、その男の子はもう一度その虫かごを持ってきた。「先生、カタツムリが卵産んだみたいです!」という。見ると、カタツムリはケースの透明蓋に逆さまにへばりつき、そのそばに白い球状のものがたくさん着いている。確かに産卵したようだ。

男の子によると、前日の夜に見た時は、普通にエサを食べていて、卵はなかったという。エサはキャベツの葉、ニンジンの切れ端などが入っていた。しかし、今朝見たら、キャベツの葉の上に、白い玉のようなものがたくさんあって、驚いたという。その後も通学中にも虫かごの蓋の裏側に次々と卵を産んで、こんな状態になったという。



カタツムリは日本では普通に見られる種類の一つの「ミスジマイマイ」のようだ。殻の直径は4cm以上あり、かなり大きい個体である。



男の子が持ってきてくれた時点で、卵はキャベツ上、蓋の裏側合わせて37個だった。ミスジマイマイは一回の30~40個ほど産卵するらしい。



卵は真珠のようで非常に美しい。見に来た子どもたちも、興味津々にこの美しい卵を観察していた。